

# ビワ生育情報

千葉県  
平成27年4月号

## 平成27年3月の気象

平成27年3月の半旬別の気象は表1に示した。平均気温は、第2、3、5半旬は平年を下回り、第1、4、6半旬で平年を上回った。月平均気温は10.3℃で、平年より1.1℃、前年より0.6℃高かった。

氷点下を下回った日はなく、最低極温は第5、第6半旬で平年を下回ったが、第1～第4半旬では平年を上回った。

降水量は、第1、第2及び第4半旬で平年を上回り、第3半旬には降雨がなかった。月合計は195mmで、平年より13mm(7%)、前年より28mm(17%)多かった。

日照時間は、第3、第5、第6半旬で平年を上回った。月合計は199時間で、平年より45時間(29%)、前年より19時間(11%)多かった。

表1 平成27年3月の気象(暖地園芸研究所)

半旬	気温(℃)			氷点下日数(日)			最低極温(℃)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	9.6	7.6	7.8	0	0.6	0	2.9	0.6	0.2
2	7.9	8.4	4.6	0	0.6	3	3.1	0.5	-1.5
3	8.1	8.9	9.3	0	0.6	1	1.3	0.7	-2.6
4	13.4	9.7	11.0	0	0.2	0	7.7	2.1	3.4
5	9.4	9.8	10.6	0	0.1	0	0.9	2.7	3.0
6	12.7	10.7	14.2	0	0.2	0	1.7	2.5	5.4
平均/計/最低値	10.3	9.2	9.7	0	2.3	0	0.9	-1.0*	-2.6

\*: 3月の過去30年間の最低極温の平均値

半旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	83	26	72	22	26	9
2	40	23	1	14	26	30
3	0	27	36	38	25	30
4	64	22	35	22	24	30
5	4	46	0	43	24	51
6	5	39	23	60	29	30
合計	195	182	167	199	154	180

降水量の本年値は館山特別地域気象観測所の値を引用

## 5月の作業(果実の発育は次ページ)

ビワの袋かけも終わり、展葉の終わった新葉は濃緑色になり、果実は成熟期を迎える。収穫の最盛期は6月であるが、5月からは早生品種の収穫が始まる。

### 収穫

早いところでは早生品種の収穫が5月の中旬頃から始まるので、収穫前にモノレールや索道、道路を整備するとともに園内の草を払っておき、収穫道具や出荷用資材を揃えておく。1樹の収穫は2～3回に分けて完熟果実を収穫するが、特に1回目の初収穫では未熟果が混入しないように果皮色をよく確認して収穫する。

## 台木の養成

ビワの苗木は、生産しているところが少ないので、自家生産に取り組む。収穫した果実から種子を採り、種まきして、台木用の実生苗を確保しておく。「楠」の実生は、播種後の生長が早く、根張りが良いので、台木に適している。台木は播種後2、3年間養成して、幹が直径1.5cm程度の太さになったものを用いる。実生苗は、降雨によってごま色斑点病が伝搬し枯死するので、ビニールで屋根掛けして雨水を遮断する必要がある。

## 果実の発育

4月1日現在のビワの果径は表2に示した。

横径は、「楠」が1.50cm、「大房」及び「田中」は3地区の平均でみるとそれぞれ1.70cm、1.77cmであった。「楠」は平年より5%小さかったが、「大房」及び「田中」は平年よりそれぞれ9~15%大きく、生育が遅れていた前年と比べると3品種共に9~37%大きかった。

縦径は「楠」が1.78cm、「大房」及び「田中」は3地区の平均でみるとそれぞれ2.12cm、2.18cmであった。「楠」は平年より10%小さかったが、「大房」及び「田中」は平年よりそれぞれ9~11%大きく、前年と比べると、「楠」はほぼ前年並みで、「大房」及び「田中」はそれぞれ17~24%大きかった。

果形指数は、「楠」が0.84、「大房」及び「田中」は3地区の平均でみるとそれぞれ0.80、0.82であった。本年の果形指数は平年並みか高く、横長の傾向である。

4月時点の果実の発育は、「楠」は平年よりやや遅れているが、「大房」及び「田中」は平年より早い。本年は着花房率が高く、寒害を被った幼果は少なかったため、着果量は平年より多いが、肥大が進んだ果実ほど、風擦れによる傷や虫害がみられるので、袋かけの際は注意する。過着果による樹勢の衰えがみられた場合は、予備枝を作るため、果房数を3~4割減らすように整理する。

クワゴマダラヒトリの発生は平年よりやや少なく、果実の被害程度も平年よりやや少ない。果樹カメムシ類の越冬量は、南房総市ほか県南地域で平年より少ないが、今後の発生予察情報を参考にす。カメムシの発生の多い園では、4月以降ビワ園への飛来に注意を要し、薬剤防除に取り組めるように準備を進める。防除に際しては千葉県農作物病害虫雑草防除指針に従う。

表2 果実の発育 (4月1日の果径)

品 種	調査地	横径(cm)			縦径(cm)			果形指数		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠	暖地園研	1.50	1.58	1.38	1.78	1.98	1.80	0.84	0.80	0.77
	青 木	1.74	1.59	1.31	2.20	1.97	1.73	0.79	0.80	0.76
大 房	南 無 谷	1.67	1.64	1.44	2.12	2.05	1.92	0.79	0.79	0.75
	暖地園研	1.70	1.49	1.33	2.04	1.90	1.79	0.84	0.78	0.75
	平 均	1.70	1.56	1.36	2.12	1.95	1.81	0.80	0.80	0.75
田 中	青 木	1.60	1.58	1.22	1.97	1.99	1.80	0.81	0.79	0.68
	南 無 谷	1.93	1.51	1.16	2.45	1.99	1.57	0.79	0.76	0.74
	暖地園研	1.79	1.51	1.49	2.11	1.95	1.91	0.85	0.77	0.78
	平 均	1.77	1.54	1.29	2.18	1.97	1.76	0.82	0.78	0.73

果形指数：横径／縦径

平年：昭和61年～平成26年の29年間の平均。南無谷は平成27年から圃場を変更し、異なる圃場の平成10年～平成26年の16年間の平均。

【問合せ先：千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話0470-22-2961】  
 ※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生産技術に関する情報」でも御覧いただけます。  
<http://www.pref.chiba.lg.jp/nousui/nourinsuisan/nourinsuisan.html>